

多種多様な留学制度

国際交流 キャンパスでも活発

本学は、世界16カ国・地域20大学と国際交流協定を結び、活発な教育・研究交流を展開している。

先が多種多様な海外留学が可能な。そのための学習支援講座をきめ細かく展開している。

キャンパス内には、海外から多くの留学生が学んでいる。学部生、大学院生のほか海外の協定校

夏と春の短期留学プログラム、中期・長期留学制度により、期間、留学

からの特別聴講生、日本語や日本文化、ビジネスを研修する短期留学生がおり、海外の学生と交流する機会が豊富にある。

9号館5階の国際交流センターを訪ねてみよう。

中期留学(前期)に20人

氏名・留学先は次のとおり(敬称略)。

英語コース:前期

●オレゴン大学(アメリカ)▽村松大将(経済3)▽福王寺翼(経済3)▽渡邊潤(経済3)▽馬場智也(経済2)▽加納由規(経営2)▽芦田朋子

(経営2)▽小山理沙(商3)▽滝内ゆかり(文3)▽上田周作(文3)▽堀内綾乃(文3)

●オレゴン大学(アメリカ)▽大塚千奈美(文3)

●ウーロンゴン大学(オーストラリア)▽米倉祐司(経済3)▽丸山雅加(経済3)▽大木里紗法(3)▽森下このみ(経営校)▽宮本勇太郎(文3)

●ゲート・インスティテュートブレメン校(ドイツ)▽本年度から研修校)▽宮本勇太郎(文3)

豪ウーロンゴン大学でエコボランティア

中国・上海大学への中期プログラムで

留学生に日本語の会話の助けをする



専大の旗をもって鎌倉ツアー

留学体験者が集つ「国際交流BOGGO会」

きもの姿がさまになって...

留学体験者が集つ「国際交流BOGGO会」

スタンドグラスの商店街

専大生の目でPR

課題解決型インターンシップで



左から平井さん、高橋さん、横山さん、神保さん

アーケードを彩るスタンドグラス」(平井さん)ととらえ、15年前に制作した作家に取材、クローズアップした。

10カ月かかった労作。さまざまな学部が集まり、得意分野がそれぞれあり、強みとなった(高橋さん)、「二連の編集作業は自信になった」(神保さん)と完成した喜びはひとしお。リーダー格の横山さんは「商店会の要望を取り

JR川崎駅前の商店街「銀柳街」(加盟53店)の魅力を紹介しようとガイドブックづくりに専大生が取り組んだ。若者の目を取り組んだ。若者の目での作業をして3月末に完成した(2000部発行・A4判オールカラー12ページ)。

学生は浦部梓さん(経営3)▽平井美由紀さん(文4)▽高橋美希さん(同)▽横山達也さん(ネット情報3)▽神保圭汰さん(同)の5人。昨年、キャリアデザインセンターの課題解決型インターンシップに応募、川崎銀柳街商業協同組合から「フレッシュなガイドブックを作って」と依頼された。

こだわりの飲食店や若者に人気のドラッグストアなどを、男女学生が歩いてコメントする設定で紹介。また「銀柳街の最大の特徴は

JR川崎駅前「銀柳街」ガイドブック完成

入れつつ斬新なものができたと思う。私たち同世代の人たちにも銀柳街の魅力を知ってほしい」と語る。

ガイドブックは同商店街主催の東日本大震災被災者救援チャリティイベントで配布して好評だった。各店舗、市役所、生田キャンパスでも無料配布する。

※本年度の課題解決型インターンシップの募集説明会は4月26日に生田キャンパスで行われる。詳細はキャリアデザインセンターのホームページなどで確認を。



チャリティイベントでガイドブックを配布する浦部さん

かわさきコンテナシアワード

Creator Meets Agriculture

鬼澤良平さん(ネット)がJAセレサ賞受賞

ネットワーク情報学部4年次の鬼澤良平さんが、「かわさきコンテナシアワード2010」のアイデア部門でJAセレサ賞を受賞した。

川崎市産の農産物を中心に販売するJAの直営所「セレサモス」(麻生区)のPRなど、農産物を販売促進するためのアイデアや映像、キャラクターをテーマにしたという。「数多くの



セレサモスの皆さんと鬼澤さん(中央)

「3月20日に川崎市産業振興会館にますます興味をわき、就職活動の励みになります」と話している。

ボランティアサークル「SKV」誕生

災害対策やエコキャップ回収、地域清掃をメインに活動

2010年度の災害救済、また神田キャンパスボランティア講座の修了生を中心に防災知識と技術の向上を継続して活動できるようなるた「SKV」(エスケーブイ)は、12

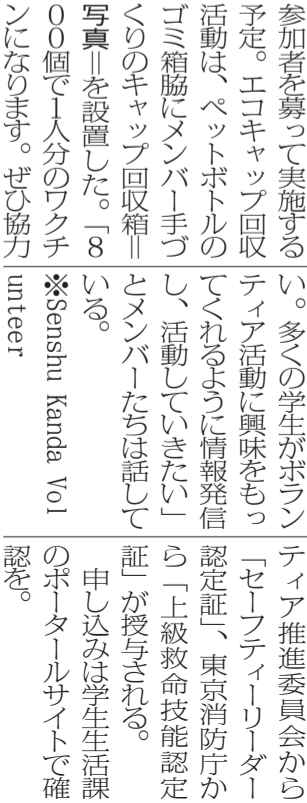
年度学生生活課の傘下団体を目指し、現在活動を行っている。主な活動は災害対策のほか、清掃活動とエコキャップ回収活動。清掃活動は2月に神田キャンパス周辺で活動を行い、5月から多くの参加者を募って実施する予定。エコキャップ回収活動は、ペットボトルのゴミ箱脇にメンバー手づくりのキャップ回収箱を設置し、800個で1人分のワークチンになります。ぜひ協力

を」と呼びかけている。

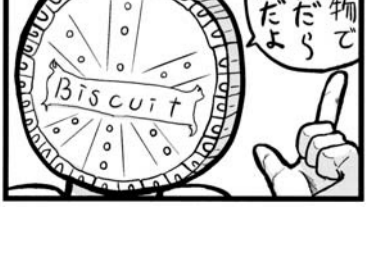
災害対策は今月被災地でのボランティア活動に参加(1面・9面参照)。

「3月末に予定していた『三角巾による応急手当』と『最近の防災事情』は、東日本大震災の影響で中止になりましたが、時期をあらためてぜひ開きたい。多くの学生がボランティア活動に興味を持ってくれるように情報発信し、活動していきたい」とメンバーたちは話している。

※Senshu Kanda Volunteer



漫画研究同好会



では「市内の農業の背景をよく調べてあり、実現性が高い。バケツにキャラクターを入れるなどして親しみやすさを増す工夫をしてはどうか」という意見をいただきました。もっとラッシュアップして、実現を目指します。今回、人とかかわり出したいと選んだコンテンツデザインコースでの学びを生かすことができました。この受賞でウェブを使ったマーケティングや企画といった分野にますます興味をわき、就職活動の励みになります」と話している。

キャンパス情報

【学生部】災害救援ボランティア講座

5月20日、28日、6月4日に神田キャンパスほかで開催される。講座修了者には災害救援ボランティア推進委員会から「セーフティリーダー認定証」、東京消防庁から「上級救命技能認定証」が授与される。申し込みは学生生活課のポータルサイトで確認を。